

**\*登録有形文化財に答申された国立天文台旧図書館及び倉庫**

アーカイブ新聞第706号に「登録有形文化財になった国立天文台表門」、第707号に「登録有形文化財になった国立天文台門衛所」という記事を書いた。2013年11月15日の文化庁文化審議会での国立天文台の7件の建造物が登録有形文化財として文部科学大臣に答申されたのである。今回はその中の一つ「国立天文台旧図書館及び倉庫」について書く。国立天文台は2004年に設立された大学共同利用機関法人「自然科学研究機構」の一員であるが、その前身の一つである東京大学東京天文台はその名前のように東京大学の附置研の一つであった。その東京大学の建物の多くに使われたスクラッチタイル張りの建物が「旧図書館及び倉庫」である。国立天文台の中に同様のスクラッチタイルが使われた建物として「太陽塔望遠鏡」があり、こちらは1998年に三鷹市の申請ですでに登録有形文化財になっている。

旧図書館及び倉庫は1930年(昭和5年)に建設されているが、建設当時から増築される設計図面になっており、1961年(昭和36年)に西側に3階建ての書庫が**増築**され、床面積は188平米になっている。

スクラッチレンガは表面に縦筋のひっかけ溝があるレンガで建物の外壁に使われる。写真1が国立天文台に現存する旧図書館であり、壁面のスクラッチレンガの様子が写真2である。



写真1



写真2

スクラッチレンガはなかなかの優れもので、縦に溝があるにもかかわらず、その溝に埃

がこびり付く、あるいは溜まるということがなく実にきれいなのである。

1961年の増築後にも西に増築する計画があり、鉄筋が突き出ている(写真3)。



写真3

旧図書館の設計図面が残っている(図1)。図1の左上部に増築予定の図が載っている。図面は6葉あり、詳細な図面には特徴的な丸窓も描かれている。

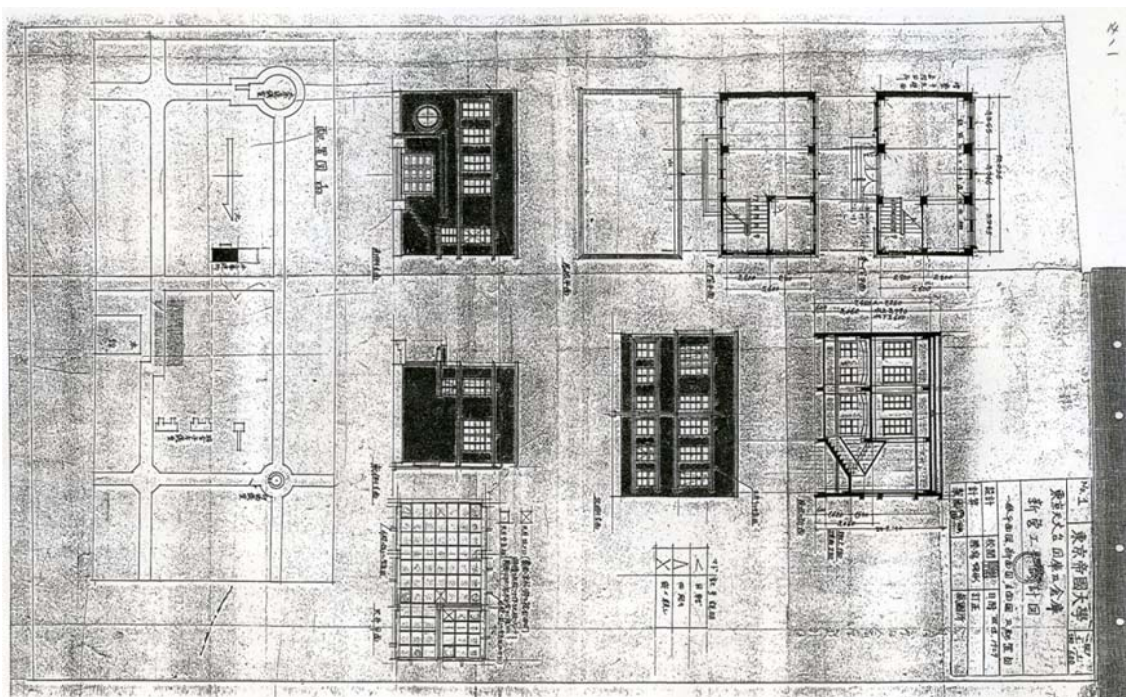


写真4

1961年(昭和36年)の増築時の図面も残っている(図2)。筆者の知る旧図書館の2階の司書室には早水さんという方が長くお勤めであった。そのころゼロックスというコピー機が導入され、司書室の下の1階にコピー機が置かれ、コピーを取りに通ったことが思い出される。コピー機は湿気を嫌ったため、コピー機が置かれた部屋には窓に設置されるエアコンが2台置かれ、いまだに朽ち果てたままのそのエアコンは窓に鎮座している。1972年(昭和47年)に南研究棟が建設され、1階に図書室ができ、図書室は旧図書館から新しい南研究棟の図書室に移り、コピー室も新しい図書室の片隅に異動した。以後、図書館は倉

庫と化して長年を経過し旧都書庫と言われるようになった。現在は、旧図書館の2階は太陽グループの資料の保管場所になっているほかは雑然とした倉庫である。

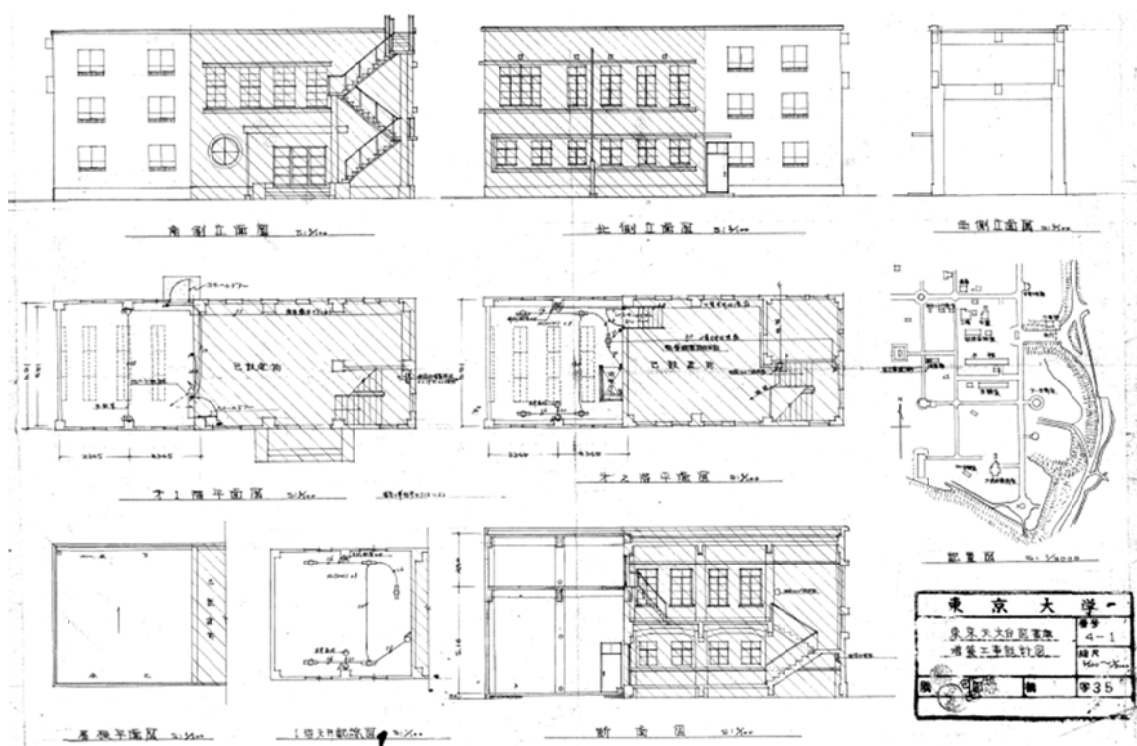


図2

この旧図書館は、年を経過を感じさせ見学者にもなかなかの評判である。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)